

# もも栽培情報 第5号

令和6年6月21日  
J A アルプス  
富山県富山農林振興センター

## 1 概況

園芸研究所果樹研究センターの調査では、6/18（満開68日後）の「あかつき」の果実横径は49.0mmで前年よりやや大きく、平年並みとなっています。

また、「あかつき」の収穫開始は、7/20～22頃で、平年並みと予測されています。

## 2 病虫害防除

破袋後は、灰星病および、カメムシ類の重要防除時期です。散布ムラのないよう下表を参考に防除を実施してください。

### 結実樹

（散布量：400L/10a）

回	時期	対象病虫害	使用農薬	希釈倍率	100L 当たり 必要 薬剂量
11	7月上中旬 (破袋後)	灰星病	アンビルフロアブル スタークル顆粒水溶剤	1,000倍	100 mL
		モモハモグリガ、シンクイムシ類、 カメムシ類		2,000倍	50 g
		展着剤	マイリノー	20,000倍	5 mL

・園地により生育差があるので、散布は生育に合わせて実施してください。

・アンビルフロアブル、スタークル顆粒水溶剤の使用時期は、収穫前日（24時間前）までです。「あかつき」より前に収穫する品種がある場合は、特に注意してください。

### 未結実樹

（散布量：5L以上/樹）

回	時期	対象病虫害	使用農薬	希釈倍率	100L 当たり 必要 薬剂量
8	7月上中旬	せん孔細菌病、黒星病	デランフロアブル スタークル顆粒水溶剤	600倍	166 mL
		モモハモグリガ、シンクイムシ類		2,000倍	50 g
		展着剤	マイリノー	20,000倍	5 mL

農薬散布の際は、濃度や対象病虫害など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。  
また、周辺の他の作物や住宅等に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。

## 3 樹体管理

### （1）新梢管理

主枝・亜主枝背面の日焼け防止のため、主枝・亜主枝背面から発生した新梢は、葉を数枚残して摘心してください。

徒長枝は、新梢基部の5～20cmから発生した長めの副梢（写真1 矢印部分）2～3本を残して摘心することで、残した副梢を翌年の結果枝として利用できます。

なお、過度な摘心は、葉枚数不足による樹勢や果実品質の低下を招くことから注意してください。



写真1 徒長枝の摘心

## (2) 支柱立て・枝つり

果実の重みや降雨による枝折れ防止、樹冠内の光や薬剤の透過性を良好にするため、支柱立てや枝つり（写真2）を実施してください。

特に樹齢の経過に伴い、主枝・亜主枝の背面が日焼けした箇所などでは、重みにより枝が欠損しやすくなるため、必ず実施してください。



写真2 支柱立て・枝吊り

## 4 着色管理

### (1) 破袋・除袋

破袋（写真3）・除袋の時期は、果実が品種固有の大きさに達し、地色の緑がやや黄色味を帯びてきた頃です。実施時期・方法は、袋の種類によって異なりますので、表1を参考に実施してください。

ただし、曇雨天が予想される場合は、着色向上を図るため、表1より1～2日程度早めに実施してください。



写真3 破袋

表1 袋の種類による破袋・除袋の実施時期の目安

袋の種類		実施時期の目安
一重パラフィン袋	破袋	地色や着色程度を確認するため、収穫予定7日前を目安に、袋の下の部分を破って広げる。
二重袋	除袋	収穫予定14日前を目安に実施する。

### (2) 葉摘み

破袋・除袋が終了したら早めに葉摘みを実施してください。果実の周囲2～3枚の、果実に密着している葉や、光を遮っている葉を摘み取ってください。

## 5 かん水

5日以上まとまった降雨がない場合、果実肥大を良好にすることと、果実の渋みを防ぐため、20mm程度（20t/10a）のかん水を実施してください。ただし、収穫時期近くのかん水は、果実の糖度低下につながるため、収穫予想日の10日前以降はかん水を控えてください。

- 農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。
- 脚立での作業や、農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。